



■ 「100回目の夏」—学園祭開会式にて—

「4年ぶり」。5月以降このフレーズを何度耳にしたでしょうか？この夏、全国各地で「4年ぶりに開催」されるイベントが数多くありました。今日から始まる「三高祭」も4年ぶりの通常開催となります。3年間一定の制限のある開催を余儀なくされたものの、4年ぶりに“普通に”開催できました。学校としてはそれでいいのかもしれませんが、しかし、その年その年の生徒にとっては、まさにその年こそが大事な1年でした。“普通に”開催できない学園祭、それでも生徒会試行部を中心として生徒たちは工夫を凝らしながらその時でできる最大限の準備をして学園祭に臨みました。あるいは、そこには“普通の”学園祭では得られなかった友達との強い絆や連帯感といったものがあつたかもしれません。ただ、友達とのつながりは密になつたとしても、彼ら彼女らには、肩を組み、大声で歌を歌うといった“青春の1ページ”を味あわせてあげたかつた。その思いは消えません。

やっぱり「青春ってすごく密なので」

今年度「三高祭」のテーマは『100回目の夏 Enjoy it.Beyond that. (楽しむ。その先に…)』です。三刀屋高校は、大正13(1924)年に55名の入学生を迎え開校しました。その年が1回目の“夏”。今年はそのから数えて100回目の“夏”となります。その間、大正、昭和、平成、令和と4つの時代を経て現在に至ります。私たちが日本史や世界史の授業で学んできたとおり、戦前、戦中、戦後、あるいはバブル期といったように、歴史上の各局面を過ごした当時の生徒の皆さんにとってそれぞれの“夏”があつたことと思います。辛い時代にあつて学園祭どころではなかつたという方もいらつしやつたでしょう。辛い時代にあつても学校での友人との関わりに励まされたという方もいらつしやつたでしょう。そんな99回それぞれの“夏”を越えて、今年100回目の“夏”を迎えました。「Enjoy it. (楽しむ)」その前に、これまでの先輩たちの“夏”にも思いを馳せてほしいと思います。

97回目の“夏”、当時の生徒会長は学園祭初日の開会式でこう述べています。「今回の『三高祭』のメインテーマは“MAXIMUM (マキシマム)”。意味は最大値です。私たち生徒会は、7月から今できる最大限の『三高祭』を開こうと努力してきました。しかし今年とは特別な一年。例年どおりとはいきませんでした。たくさんの規制に阻まれ、迷い、葛藤してきました。その中でもメンバー一人ひとりが、今できる“最大限”の準備をしてきました。高校生にとっては、大声で騒いだり盛り上がったたりすることができないというのは、とてもつまらないと思うかも知れません。しかし、楽



しみ方はたくさんあります。皆さんで出場者の皆さんに拍手をして客席とステージを一つにし、特別な3日間を盛り上げていきましょう。それぞれが万全に対策をし、全員元気に3日間を楽しみましょう。」と。

そして 98・99 回目の“夏”も一定の制限がある中での開催でした。4年ぶり通常開催となる今回、3年生の皆さんにとっては1・2年生の時の学園祭とは違い、ある意味初めての熱い“夏”かもしれせん。統一テーマにある「Enjoy it. Beyond that… (楽しむ。その先に)」の説明には、「楽しみ盛り上がりたい。その中で、自分、友人、役割などたくさんのことに向き合い、自分にもみんなにもずっと記憶に残る学園祭にしたい。」とあります。合唱、クラス展示、色別パフォーマンス、衣装、デコレーション、部活動等の展示、一つのを協働して創造していく過程は、思いのほか大変な作業です。しかし、やり遂げた後にはきっと一段階成長した自分が待っています。

3日間、元気に楽しく駆け抜けよう！

Enjoy it. What is the view beyond that?